

## 1. 人事

8月1日付けで柏木講師が准教授に昇進した。

## 2. 学会活動

第49回に日本医学教育学会大会（札幌）に柏木が「自主学習室におけるメンター配置の効果について」（P-7-2）、神代が「より良い国家試験のための大学の役割」（W-03）を発表した。シンポジウム1「アクティブ・ラーニングの実践例の紹介」では解剖学の太田啓介准教授が「医学部組織学実習へのLTD基盤型授業を意識した協同学習の導入とその効果」を発表し、文学部の安永 悟教授が全体の講評を、神代が司会を担当した。

他のシンポジウムには「臨床医学への行動医学アプローチから構想する行動科学教育の準团的統合」、「シミュレーション医療教育の現状と展望」、「アンプロフェッショナルな行動への対処～卒前・卒後の連携～」などホットなテーマが見られた。一般演題は学生セッション36題を含めて約500題であった。「5年次の臨床実習（19科）で学生が経験した医行為の回数は患者との会話128回、病歴聴取74回、診療録作成95回、呼吸音聴取81回、心音聴取80回、腹部視診63回、打触診43回、検尿11回、心電図記録16回」という具体的な発表もあった（O-13-03）。

## 3. 視察

8月18日（金）安達が北海道大学のシミュレーションセンターを視察した。

## 4. カリキュラムワークショップ（8月26日 土曜日）

安達がテーマ4「新カリキュラムの土台固め」の責任者を務めた。神代は同じくテーマ4、柏木はテーマ1「第1学年・第2学年の現状と検証」に加わった。

## 5. 第6学年総合試験

CBT形式で400問を実施するにあたり、当センターの安達、柏木が協力した。この際、不測の事態に備える1次対応マニュアルを作成して学内待機した。

## 6. クリニカル・クラークシップ（CC）の評価

CCの評価をICTを利用して効率化するための話し合いを、安陪教務委員長、山本副教務委員長、教務課古賀みさき氏、神代 安達、柏木の6名で開催し、Moodleを利用した評価制度を作成することとなった。

以上